

令和4年度 第4回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和5年2月24日（金）9時30分から11時30分

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計 16 人

(1) 学校運営協議会委員 6人

委員A、委員B、委員C、委員D、委員E、委員F

(2) 学校関係者 10 人

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務課長、支援連携課長、コミュニティ・スクールディレクター（CS）

4 内容

(1) 校長挨拶

校長：今年度コミュニティスクールの初年度となる。実現できたこと、実現までには及ばなかったことがあるが、確実なものにして今後につなげていきたい。今年度は、教育活動がコロナ前に戻ってきた。光る子まつりの開催、中学部、高等部では作業製品の地域での販売などができた。光る子まつりのバザーでは、地域の方に学校の中に入ってもらうことができた。

特別支援学校の動きとして、R5年度4月には富士東高校の中に富士東分校、R6年度には、小山高校に高等部の分校、R9年度には磐田に特別支援学校ができる。児童生徒の全体数はあまり変わっていないが、特別支援学校・学級は増えている。地域とつながりながら活動ができるとよい。

(2) 会長挨拶

会長：委員の方は、今回も忌憚のない意見を述べてほしい。

先週きぼう館で、高等部の生徒から、朝通学路の横断歩道に立ち、交通ボランティアをしている高南地区の交通安全委員会16人に、学校を代表して御礼の作業製品をいただいた。とても力作で素敵な物でみんな喜んでいて。今後も地域と学校とのつながりが深まるとよい。

(3) 協議事項

ア 令和4年度学校関係者評価委員会（司会 副校長）

○令和4年度学校経営報告書について

校長：【取組目標】についてそれぞれ説明

【未然防止の行動力と有事への対応力】について

- ・何かあったときにどう動くか、起こらないようにするために何をしたらよいのかを常に意識した。
- ・有事の時にすぐに動ける最低限の行動を書いたアクションカードの作成と活用ができた。
- ・コロナについての情報提供はスムーズにできたが、臨機応変に対応していくのは難しかった。
- ・医療的ケア担当以外の教員も学年・学部の医療的ケア児のケア項目を知れるとよかった。
- ・予算計画は光熱費の見通しが難しかった。

【専門性（授業力）の向上】について

- ・子どもの姿を捉えるために自立活動の視点から目標を考えることができた。
- ・教科別の指導について、指導カードや教材を共有し合うのが難しかった。
- ・コロナで子どもの体力が落ちた。来年度も基礎体力の観点を整理しながら取り組んでいく。
- ・子どもが12年間でどのように育っていくのか、見通しがもてるように全体計画を作成した。職員に伝えるのが遅くなってしまったので、来年度は全体計画の意味が分かって実践したい。

【連携】について

- ・交流及び共同学習は少しずつ進んでいる。共生教育の推進という点から目的を共有したい。
- ・袋井市との連携は2年目となり、随分できてきた。
- ・情報発信として、ホームページ等の更新をもう少しできるとよかった。

○保護者アンケート

教務課長：保護者アンケートについて説明

- ・学校経営計画に基づいた内容のアンケートを実施し、保護者からの回収率94%
- ・すべての項目で高い評価をいただいている。学校と家庭が連携してできたのではと思う。今後も保護者、地域への情報発信に努めたい。
- ・どの項目にも回答CDの満足ではない保護者の御意見もあった。真摯に受け止め、今後につなげたい。
- ・保護者に対して十分な説明をすることを来年度に反映させていきたい。

○高等部生活アンケート、高等部3年進路状況

高等部主事：高等部生活アンケートと高等部3年進路状況について説明

- ・年2回、7月と11月に生活アンケートを実施。今回は11月の結果。
- ・記述があった件については、個別に聞き取りを行い主任と確認し、対応をしている。
- ・携帯電話のトラブルがいくつかあった。自分は連絡したいが相手生徒は迷惑に思っているケースが多い。携帯電話使用のルール説明と教員間での共通理解をする。来年度は、ラインの講座を活用する。
- ・悩みを抱え込むより誰かに伝えることは、社会に出たときも大切。学期に1回は悩みを聞く機会を設ける。来年度は、1年生対象にスクールカウンセラーと計画的に面談を行ってきたい。
- ・自分の気持ちを伝えることができない生徒もいる。生徒の些細な変化を見逃さない、生徒のあらわれを見取れるように、教員の専門性も向上させていきたい。
- ・卒業式の次の日に進路先も交えて、卒業生の移行支援会議を行う。

○委員より提言

委員A：学校関係者評価が、ほぼAであることは評価できる。ホームページの活用について、高南区連合でも自分たちの活動が地域に届かないこともある。発信の方法として、ツイッター

ーやインスタ、ホームページなど色々ある。もう少し気楽に発信できるものがあればよいのでは。継続した発信、レスポンスしやすい発信、若い人への発信として、SNSの機能を利用してよいのではないか。

委員B：アクションカードは工夫されている。公共交通機関につながるQRコードがあるのも良い。ヒヤリハットがたくさん出るのはよいこと。ヒヤリと感じなくなるのが危険。継続して欲しい。

委員C：家庭と学校の連携の仕方を教えてほしい。

教務課長：毎日連絡帳でのやりとりをしている。必要であれば電話連絡もする。学部、学年便り、メール連絡システムのコクーも利用している。また、定期的な個別面談も実施している。

委員C：高等部の生活アンケートの「相談できる人がいますか」の項目で、35%は「できない」と答えていることに対して、どのように考えているのか？

校長：まずは、自分が困っているということが分かること、そして困ったら伝えられることを大事にしている。自己理解と他者への援助要請ができるようにしていく。小学生も嫌なことは嫌と言えるように。自己開示が難しい生徒が多い。

委員C：携帯電話の使用について、「携帯電話」という言葉を「スマホ」に変えてはどうか。どれくらいの生徒がスマホを持っているのか？

高等部主事：数人の生徒が学校に持ってきている。自力通学の生徒の安全確認として保護者がもたせている。学校以外の家庭で使っている生徒は多いのではと思う。

委員D：ヒヤリハットも頑張ってくれていて嬉しい。「医療的ケア児のケア項目を知っている」という内容について、単に項目を知っているだけでなく、一回でも一緒にやってみるといいのでは。そうすることで意識が高くなるのでは。働き方改革が医療界でも問題になっている。経営計画に働き方改革の項目があってもよいのでは。

12年間の積み上げについて、進路指導が低いのは教員の意識の問題か。

高校生のアンケートより、学校は楽しいよりも学ぶところという思いの生徒もいるが、楽しいと思える場になるとよい。

委員E：交流籍校交流に対して、交流をしてくれるという保護者の期待が大きい。交流相手校で何をするのか、具体的に何をしてくれるのかイメージがもてるとよい。

アンケートについて、上の子（高等部）は、質問に答えることができる。下の子（中学部）は保護者の読み取りになる。悩みの相談は、兄は悩みを言うことが格好悪い、注意されると思っているかもしれないのか、聞くと「ない。」と答える。言えることは大事だが、なかなか難しい。「誰かに言ってもいいんだ。」という環境になるとよい。

委員F：「12年間の積み上げる授業実践」で実践した教員が防災教育71%から進路学習40%は高くない。割合が上がっていかないのはなぜなのか検証するとよい。

保護者アンケートについて、CDの回答は少ないとはいえ、改善を目指す糸口にしてほしい。

高等部のアンケートは、生徒達が素直に答えていると思った。

副校長：関係者評価は学校自己評価と同等でよいか。

委員A～F：よい。

イ 校内コンプライアンス委員会（司会 副校長）

教頭：不祥事根絶取組説明

- ・4月に県教育長より緊急メッセージを受け、校長より講話を行った。また、グループで話し合い、一人一人が付箋に書いたものを校長室前に掲示した。
- ・12月、1月にも小グループによる話し合いを実施した。
- ・体罰、セクハラ調査を行った。体罰、セクハラ該当なし。
- ・交通事犯 教職員8件
- ・12月に教職員対象の交通事故削減の講習会を実施した。

○委員より提言

委員D：セクハラ、わいせつについて、職員が申し出しやすい環境があるのか。

校長：相談員がいる。職員安全衛生委員会も開いている。

委員D：ストレスチェックは行っているか？

校長：実施している。集団分析だと、ストレスを起因とするリスクは平均より少ない。個人的な対応も行っている。

ウ 令和5年度学校経営計画案について（司会 会長）

校長：令和5年度学校経営計画案説明

- ・業務改善について、県の指定で数年前に力を入れた。会議の精選、マイワークデーの設定。R5年度は、ICTを活用し、資料や教材を共有しながらできるシステム、環境整備を行うことで業務改善につなげたい。
- ・【目標具現化の柱】についての説明
【安心・安全】
- ・管理責任者が決まっていなかった場所もあったので、確実にしたい。
【子ども主体の授業】
- ・教職経験6年未満の教員が6割ほどいる。班別研修の推進し、子どもの気持ちを汲み取った授業づくりを行っていく。
- ・1～12年間のつながりを押さえていく。
- ・自分たちが目指すところが分かるように、キャリアステージに合った研修を推進していく。
【連携】
- ・交流籍校交流は、地域で育っていくための一歩。
- ・情報発信は、ホームページ以外の方法も探っていく。引き続き、作品を飾ることを積極的に行っていきたい。
- ・校内では、縦のつながりを大事にしたい。

○委員より提言

委員B：地域との連携が大切。支援学校は、地域から見たら何をしているのかが見えにくい。

地域にどのように理解してもらうかが大事。袋井をモデルにして磐田へも伝えていきたい。

校長：磐田市の民生委員会が見学に来る機会もある。

委員E：性の教育について、男の子にどのように教えているのか知りたい。どのように教えるとよいか講習会みたいなのがあったらよい。

静岡で開かれた特別支援学校の作品展を見に行ったが、とても素晴らしかった。本校も小中高とあるので、合同で作品展を行ってもよいのでは。

校長：学校保健委員会も来週ある。学校での学習の様子や内容も発信していきたい。

委員D：災害の訓練はどんな設定で行っているのか。

教頭：地震、火災、地震からの火災、予告なしの年4回、毎回テーマを決めて行う。

委員D：地震の訓練がありがらだが、火災の訓練も大事。

連携は地域包括ケアに似ている。例えば、お年寄りがゴミ出しをできないので、中学生が出してくれるなどの取り組みも聞いた。

委員C：より具体的などころを攻めていってもらいたい。

委員F：年間指導計画、学年経営案の定期的な見直しとあるが、PDCAのAの部分、なぜできなかったのかを検証することが大切。

避難訓練の予告なしで、子どもがいなくなるバージョンもやったことがある。

委員A：子どもたちが自己肯定感をもてることが大事。教員が子どものよさに気づき、認め、保護者に伝えていって欲しい。

未熟な教員に対してOJTは大切。

○令和5年度学校経営計画の承認

会長：承認してよいか。

委員B～F：よい。

4 意見交換（司会 会長）

『学校を知ってもらう活動について』

○R4年度取組報告

CS：R4年度取組説明

- ・高南コミュニティセンター、あえるもんでの児童・生徒作品の展示。
- ・高等部サービス班による、高南コミュニティセンターでの館内清掃。
- ・袋井市花の会と花の苗植えによる交流。
- ・光る子まつり PTA バザーに地域の方を招待。
- ・コミュニティスクールだよりを高南地区に回覧。

○R5年度計画説明

CS：R5年度計画説明

- ・普段の生活の中での協働活動（環境整備、挨拶運動、登下校の見守り）
- ・行事等をきっかけとした協働活動（運動会、避難訓練、光る子まつり、展示販売会、演奏会等）

○意見交換

【小学部の発表活動について】

委員A：あえるもんには11:00くらいから客が集まる。演奏・発表等を披露するのなら、12:30～スタートがよい。1時間か1時間半くらい、普段はアコーディオンの伴奏に合わせて歌を歌う活動を行っている。

【中学部地域清掃活動について】

C S：中学部で地域清掃を行いたい。あえるもん、高南コミュニティセンター、体育館、通学路等、地域のボランティアさんと一緒に活動できないか。

委員A：草取りカフェが月1回ある。学校の時間帯の制限はどうか。

中主事：10:00-11:30くらいが活動時間となる。

委員A：春と秋の美化運動は、それぞれの自治体で日を決めるが、ほぼ日曜日に行われている。主には自宅前やバス通りの清掃。高南コミュニティセンターまで徒歩で行くとき、ごみが落ちていることがあり気になっている。

委員C：高南コミュニティセンターの草取りカフェは9:00-10:00くらいまで活動し、その後はお茶を飲んだりお喋りをしたりして過ごす。平均10人くらいが参加している。大体、3・4週目くらいの水曜日に行っているが、予定は合わせられる。9:00からが活動時間だが、9:30-10:30くらい、と設定時間をずらすこともできそう。参加してくれる人たちの意見も聞きながら決めたい。実施日は決まっているので、後日知らせる。

【清掃以外での活動案について】

委員F：育ちの森では早期療育を行っている。保護者同士が情報交換できる場所を作ろうと考えている。あまり広い部屋ではないが、作品展示ができると思う。一定期間作品を展示できれば、色々な保護者に見てもらえることができる。

委員A：子どもたちだけでなく、親御さんに向けた取り組みも行えるとよい。

校長：今年度の運動会は、保護者も限定的に参加した。来年度は気軽に地域の方に見に来ていただけるようにしたい。光る子まつりも同様に考えている。

南の丘学園の教員は授業公開を月2～3回行っている。地域の方々にも来ていただきたい。なかなか敷居が高い様子。継続して取り組んでいきたい。

委員A：民生委員の見学や授業参観も参加していけるとよい。お知らせを回覧し、チラシでどうぞ、と呼び掛けてもなかなか伝わらないことが多い。お知らせやチラシは、イラスト等が入っていてパッと見てわかるものが良い。時候の挨拶等が入っているきちんと書かれている文書はアピール度が低い。発信の工夫が大切になる。

委員D：アクシスの文化祭も、今年やればよいが、医療機関なので難しい面もある。

委員E：光る子まつりのPTAバザーは、回覧板で回した効果があったと感じている。地域の方が参加してくれて、私たちのことを知ってもらえることができた。地域の方々とつながっていく一歩が踏み出せたと感じている。来年も行っていく予定である。

委員B：運動会は、一緒に参加できるコーナーがあるのか。ボッチャ等、簡単にできる活動もある。保護者や肢体不自由教育所属の子どもたちも一緒に行えてよいと思う。オリンピック・パラリンピックで盛り上がったし、エコパでパラスポーツイベントがあって理解も進んでいる。そういうもの

を取り入れて実施してみるのもよいのではないか。実際に触れてもらい、一緒にやってみる、そんな活動がよいと思う。

学校の活動等を発信していると思うが、若い方たちになかなか伝わらない。福祉施設等では、インスタグラムを活用して発信しているところもある。様々な制約があると思うがSNSを活用するとよいと思う。

校長：インスタグラムでの発信を行っている高校もある。本校では、情報発信するときに肖像権の確認を慎重に行っている。その部分がうまくできるとよい。

委員B：福祉施設のインスタグラムも、行事の情報等が主。フォローしていると自然に情報が入ってくるから便利だと感じる。

委員C：高南コミュニティセンターでは、毎月1回ボッチャの広場を行っている。参加者は5～6人程度である。運動会の中に交流の目的でボッチャのコーナーを作れば、サークルのメンバーが12名程度いるので、紹介できる。

校長：運動会は体育の授業の発表という位置付けで実施している。教育課程のどの場面でパラスポーツに触れる場面を作ることができるか、考えていく必要がある。また、ボッチャセットの数等も確認しつつ、できる方法を考えていく。磐田見付分校は、文化祭のときにボッチャの体験コーナーを行った。そのような形であれば実施可能だと考える。

委員C：ボッチャは2セットあるから、貸し出しもできる。

中学部の光る子コンサートはどのような活動か。高南地区ふれあい合唱団が、頑張っている。小4～6年までが所属しており、10人ちょっとくらいの規模。光る子コンサートにも参加できる機会があればよい。9月以降であれば参加できるのではないかな。

委員A：去年9月、東海地区の大会があり、北陸・東海4県が集まった。そのような大会にも参加している。地元との交流、と捉えればボッチャ体験も合唱もできるのではないかな。日程等折り合えばよいが、合唱団は必ず親が付いてくる。親との交流もできて広がりが出てくる。何等かの形で結び付けたい。袋井南小学校のマーチングバンドを見るのも良い。本校生徒の発表を地域の子どもたちが聞く、というのもよいと思う。

校長：光る子コンサートは中学部が行っている。時間は10:00～11:10。教員の演奏を聞いたり、生徒が演奏したりという内容である。小学生の合唱団となると、授業を抜けてきてもらうことになるので、調整が難しいのではないかな。

委員C：ズームや録画配信等、どうか。

委員A：SNSを使うという方法もよいのではないかな。

袋井高校、袋井南中学校等、吹奏楽部があるが、日程調整のハードルが高そうである。

バザー（製品販売）は、ここの生徒が作るものはレベルが高い。欲しい、という人が多い。展示会と販売会をセットで宣伝してみたらどうか。たくさん人が集まり過ぎるかもしれないが、実物を見ればほしくなる。買いたくなる。品切れなら発注を受け付ける等、作って売るだけでなく展示から販売までを結び付けていけるとよいと思う。

委員C：簡単なマジックショーを見ることはできるかな。

小主事：地域の方の中で、得意なことを学校で披露してくれる方がいないか知りたい。

委員C：マジックショーは4人の方がやっていて、交代で1時間くらい披露してくれる。特別支援学校で

やっただけか、聞いてみる。

校長：〇〇名人さんを紹介してもらえるとありがたい。畑名人、アコーディオンの演奏等。

委員A：畑や花については、やってくれる人がいると思う。

小主事：学校前の畑を、散歩のときに気にかけてくださる地域の方がいるのではないかと。アドバイスももらえると嬉しい。

委員A：交流のきっかけになりそう。寄せ植えやガーデニング好きな人も多い。声を掛ければ、引き受けてくれる人はいるだろう。磐田農業高校の生徒が袋井特支へ来て活動するのもよいのではないかと。自治会長を通して呼び掛けることできる。情報の流し方は協力する。

委員C：この学校の子どもたちは、休みの日の生活はどう過ごしているのか。

委員E：基本は家で過ごしている子どもが多い。土曜日は放課後デイサービスの利用をしている人もいる。基本は家族と過ごしている。出掛けて何かをする場所がないので、家で過ごすしかない、というのが実情。公園に行ったり買い物に行ったりしているが、もっと行けるところが増えればよいと思う。

委員C：コミュニティセンターに少年学級というものがあり、年間5回以上活動してもらえれば補助金の申請ができる。好きなことを学級活動としてやってください、というものである。土日の活動としてどうか。子どもたちが遊びに来る居場所みたいな形で学級活動は作れると思う。登録している人が来られるときに来て、遊んでもらう、というのはどうか。

委員E：使える保険はあるか。色々な物を壊すことがある。また、じっとしていられない子、座ってやりたいことがある子等、色々な子どもたちがいる。部屋の中を探検したくて、色々なところを開けてしまう子もいる。子どもの対応のために保護者も一緒に行かないといけないので、だったら家において、となってしまう。だが、一緒に活動できる場所を求めている人もいるかもしれない。

委員C：ボッチャの会に来てもらっても良い。

委員E：活動のチラシ等を回覧してもらえれば、参加したい人がいるかもしれない。そういうところがあればいいと思う。保護者の中でも話題にしてみる。

委員B：親も一緒に参加できるとよい。

委員A：可能性を広げるために、色々なアイデアを出し合い、球を投げてみるというのはよいと思う。

5 校長挨拶

多くの意見をいただきありがたい。学校運営協議会委員の方の協力を感謝する。